人権教育だより

笑門来福

第５号１０月２５日発行

視覚障害者の転落事故について考えよう！

８月に東京の地下鉄で盲導犬を連れた男性が転落し、今月１６日には近鉄大阪線で視覚障害者の男性が線路に落ちて特急電車にひかれて死亡・・・というニュースは記憶に新しいですよね。

視覚障害者を対象とした調査結果
「ホームから転落したことがある」　36.５％
「ホームから転落しそうになったことがある」　59.９％
（２０１１年２年　日本盲人会連合の調査）

転落防止のためのホームドアや防護柵、点字ブロックの整備が急がれるのは当然ですが、巨額の費用が必要であり、物理的に設置できないところもあるので、ハード面の改善だけに期待することはできません。

皆さんの中には通学で電車を利用している人も多いと思いますが、駅は公共の場。

×「ながらスマホ」はやめましょう。

自分の身にとって危険であるばかりでなく、周りの人を危険に巻き込む可能性があります。視覚障害者や高齢者の安全に配慮できる人でいてください。

×「点字ブロック」の上に物を置いたり、立ち止まったりするのはやめましょう。

点字ブロックは、言うまでもなく視覚障害者を安全に誘導するためのものです。まさに生命を守る「命綱」なので、きちんと機能する状態を保てるよう留意しましょう。

ところで！！

点字ブロックを世界で最初に開発したのは日本人、って知ってた？

岡山県の三宅精一さんという方が、失明した友人のために開発したものです。
1967 年に岡山県立岡山盲学校の近くの交差点に世界で初めて設置されました。

教室掲示